



東日本大震災 恐るべし大津波

阿部 新康

〈震災前〉

弊社は、建設・海運・陸運・発電所・製油所における揚重作業の移動式クレーン（オペレーター付）リース業を営んでおります。主に宮城県内では、仙台火力（発）・新仙台火力（発）・JX 日鉱日石エネルギー（株）仙台製油所におけるプラントメンテナンス工事と福島県浜通りの新地火力（発）等、仙台港周辺の鋼材工場や物流センター、相馬港工業地帯の工場等、各ニーズに応える為、移動式クレーン（オールテレーンクレーン 100t～200t 吊）ラフタークレーン 10t～65t 吊を 25 台程保有し業務を行っていました。デフレ景気で四苦八苦しながらも技術の向上、安全作業の徹底をリスクアセスメント手法を用い、客先の要望に応えるべく努めておりました。建設工事では、大手ゼネコン様から橋梁・水門プラントメーカーまで幅広い要請を受けており客先には、中小企業ながらご愛顧をいただいております。全社員 46 名の会社であります。経営者の私は、この業界 40 年目になりますが、一社目入社時は経理部門で 5 年目より営業畑 32 年目で転社し代表となった次第です。クレーンの運転業務の経験は無いが、安全管理・衛生管理・機器整備・安全衛生マネジメント・リスクアセスメント等を学習し現在まで社員の教育・育成に努めて参りました。

震災前日の 3 月 10 日は、地元ロータリークラブの講話が私の担当で伊達正宗の「正宗と北上川」のお題で、北上川の築堤・登米市津山町の北上川の分流地点脇谷水門わきや・鶴波水門ときなみより正宗の家臣川村孫兵衛（土木家）が追波湾まで築いた新北上川や貞山運河ていざんうんがの建設工事の話をしておりました。

お陰で徐々に歴史の勉強をしたところでした。その夜、家内にその話をしており、よもや翌日にその北上川の川底が見え（引き潮）大津波がくるとは夢にも思いませんでした。

〈3 月 11 日大震災〉

当日は、名取川河口に近い貞山運河水門（仙台市深沼海水浴場近）の工事現場に 60t ラフタークレーン（以後 R/C）～25t R/C が工期間近で 4 基作業しており、安全パトロールをし昼頃まで現場に居り、会社へ戻り

マネジメント事務処理をしていました。

14 時 46 分大地震が起き、事務所を飛び出しクレーンのいないモータープールで地震の恐ろしさを感じました。携帯電話のワンセグで大津波警報（石巻港 4m・仙台港 6m）を目にし事務所に居た社員 5 名・役員 4 名に避難命令を出し身の回りの物を持っている間に今度は、仙台港に 10m の大津波警報になり、声を大にして「逃げろ!!」を連呼しなんとか全員逃げる事ができました。事後に分かったのですが仙台港は 20m 位の津波が襲いかかりました。それから現場作業の社員は、夜まで連絡するが安否が分からず、音信不通のまま不安を抱え自宅のある石巻へ向かいました。どこを通っても被害の甚大さに、唯々驚愕し明朝 6 時に国道 45 号線沿いを歩き住宅地の水際まで辿りついた時、辺りの状態は、正に「地獄絵図」でした。

翌朝、本社営業所近くまで行きましたが、辺りは水没し、本社社屋は流出、ミニクレーン（10t～16t）は、駐機場脇の水路に落ち入口の橋上には隣の運送会社のトラック・トレーラや、自社のクレーンのリフター等が瓦礫と一緒に山となっており足を踏み入れる事が出来ませんでした。

社屋と倉庫・資機材は、流失しましたが、幸いにも社員全員無事という確認がとれ安堵の気持ちでした。

ライフラインは、ストップし、停電。電話が不通・携帯電話も通話が来ず、メールも時々しか繋がらず、兎に角不便な日々が続きました。

次に不足したのがガソリン等油脂燃料でした。専属に構内業者として入っている「JX 日鉱日石エネルギー（株）仙台製油所」も甚大な被害を被り即、復旧作業に取り掛かりました。何とかクレーンの燃料（軽油）を確保し、作業できるクレーンを点検し、行政・客先の要請により救護・捜索活動に参加し一ヶ月以上道路上の大型車・トレーラ・油送タンクローリー等の撤去等が主な作業となりました。現場は、動き出しましたが本社機能の回復が大事なので子会社の二階に仮事務所を構え徐々に復活し、役員・社員が一丸となり、絶対に復興し、顧客のニーズに応えるべく気持ちの結束を図り何とか九ヶ月目までやって参りました。



写真一 3月12日 当社本社モータープール



写真一五 3月12日 JX 仙台製油所 火災黒煙



写真一ニ 3月12日 当社本社脇の川



写真一六 4～5日経過の黒煙と産業道路



写真一三 3月12日 当社本社モータープール



写真一七 仙台港 臨海鉄道の線路上



写真一四 3月12日 当社本社モータープール



写真一八 仙台港目の前 (夢メッセの施設)



写真一〇九 津波の力の凄さ (多賀城砂押川)



写真一三 (倉庫の立ち並ぶ) 仙台港背後地



写真一〇 タンクローリー 流された残骸



写真一四 仙台港背後地 (各社モータープール近く)



写真一一 自衛隊救援活動 (多賀城市内)



写真一五 仙台港背後地 (フェリー埠頭近く)



写真一二 自衛隊救援活動 (多賀城市内)



写真一六 交通量の多い仙台港産業道路



写真-17 交通量の多い仙台産業道路

写真-19 避難した多賀城ジャスコにて・まさに津波襲来
鉄塔の向こう側、倉庫・事務所・
家屋が流されている写真-20 3月11日 多賀城ジャスコ屋
上より津波襲来
2階建ての立体駐車場の上部、
手摺に登り茫然とする人

写真-18 無事逃げ出せたのか…。

社員の通勤車両・社有車・営業車も流失しましたので、通勤は乗合せをし、現場廻りは、一ヶ月ほどバイク・自転車等での手段をとりました。

当社の被害は、100tラフテレーン・60tR/C～10tR/Cまで9台に及び資機材等で4億3000万円となり当初立ち直りは、危ぶまれました。

4月よりクレーンメーカー、商社等に中古クレーンの買入れを依頼し、5月～8月までに以前の台数となりフル回転し北海道・東北各地・関東圏等に応援を要請し6月～8月には、1日当たり75台～85台ピーク時には、94台/日を稼働させ各発電所、工場群の復旧作業に努力しました。

お陰様で本社社屋は、12月16日に完成・引越しの運びとなり、12月で九ヶ月目になりますが、あっという間に正月を迎える事になります。行く年くる年、昨年2011年は、一生忘れ得ない大惨事の年となりましたが、2012年(平成24年)は、十二支でいう辰年で、イメージは、昇竜のようにかけ昇る「飛躍の年」としたいと考える人が多いようです。

「亢竜、悔いあり」という竜に関する故事成語がありますが、「亢竜」は、昇りつめた竜の事を指し、昇りつめた竜は、それ以上昇る事は出来ない。退く事を忘れて慎みを忘れてしまうと失敗して滅びてしまう、と

というのが主な意味です。さて、私達に置き換えてみると、売上高でトップを記録した、又は、シェア一位を達成したところで慢心してしまう事は、ないでしょうか？ 何か一つの事を達成しても、そこを出発点として「もっと良くなる処はないか」「もっと技術の向上を図る」「コストを下げるには、どうしたら良いか…」など常に問題意識を持ち前向きに物事に取り組んでいく姿勢が重要ではないでしょうか。

力強さの象徴・権力の象徴でもある「竜」は、一方では、それに慢心する事の戒めも教えてくれます。皆様も常に上を目指しながらも周りを見失う事のないようにしましょう。そうすれば、真の意味での「竜」のようになれる事でしょう。震災を目の当たりにした私も自身を振り返りこう思った次第です。今後も会員各社のご隆盛・ご健勝をご祈念いたしまして、末筆といたします。

JICMA

[筆者紹介]

阿部 新康 (あべ しんこう)
新港機工㈱
代表取締役